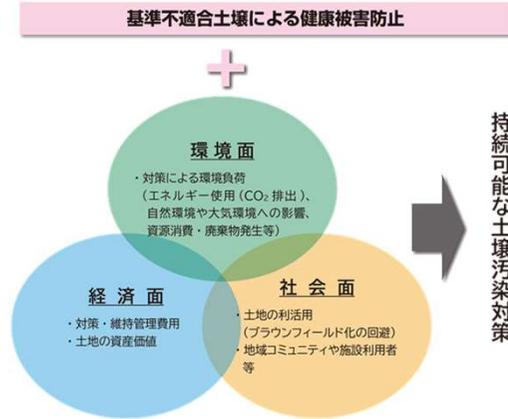


# 環境・経済・社会に配慮した持続可能な土壌汚染対策ガイドブック概要版

- 世界は、SDGsの取組など、持続可能な社会システムの構築へとその歩みを加速させている。
- 東京都では、2050年CO2排出実質ゼロに向けて、「2030年カーボンハーフ」を表明し、国内外のあらゆる主体に脱炭素行動の加速を呼びかけている。
- 土壌汚染対策においては、個々の現場状況に応じて、環境面・経済面・社会面に配慮した持続可能な土壌汚染対策を実現していくことが大切になっている。

## ○ 持続可能な土壌汚染対策の必要性

- ※ 都内においては、自然界に存在する物質により基準をわずかに上回る程度の土壌も大量に存在している中、掘削除去が多くの現場で行われている。
- ※ 基準不適合土壌が確認されている土地において、法令で求められている健康被害の防止が確実に図られていることを前提として、個々の現場状況に応じて、環境・経済・社会に配慮した持続可能な土壌汚染対策を実現していくことが大切。



## ○ 持続可能な土壌汚染対策を実現するためのポイント 1

### ① 「土壌の3R」を意識した対策

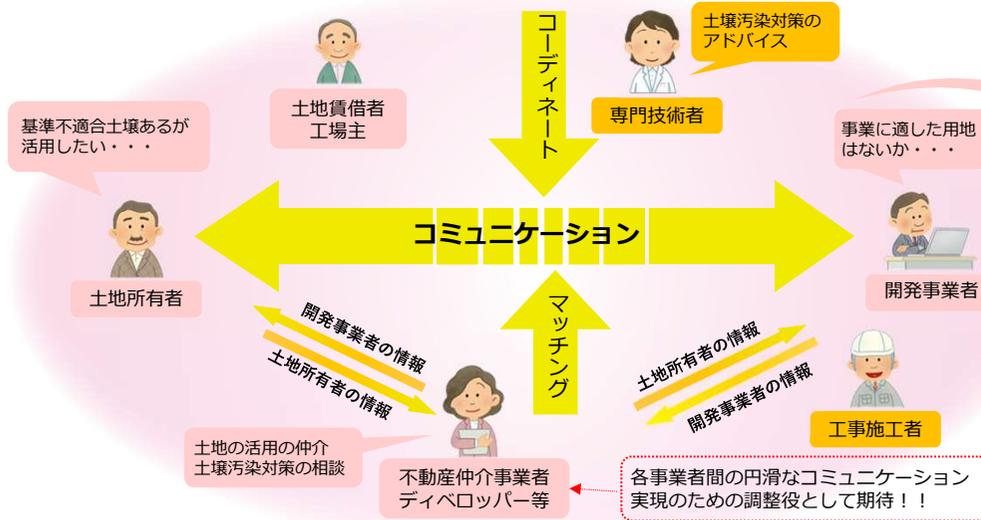


「土壌の3R」を意識して建設等工事を計画的に進めることは、措置費用を低減（経済面）できるとともに、地域コミュニティ（社会面）への配慮、CO<sub>2</sub>排出や大気汚染等（環境面）への配慮がなかった対策、すなわち「土壌汚染に対する持続可能な対策」と言える。

## ○ 持続可能な土壌汚染対策を実現するためのポイント 2

### ① 関係者間のコミュニケーション

事業に関わる土地所有者、開発事業者、不動産仲介事業者、専門技術者・工事施工会社等がコミュニケーションを取りながら、それぞれの役割を担うことが求められる。



### ① リスクコミュニケーション

事業関係者は、地域住民や施設利用者に対して、適切な情報提供等が大切。将来にわたり続く土地管理について、情報共有。

